広島支部報 **鯉城** No. 96 2011. 1

社団法人 広島県建築士会広島支部　〒730－0052 広島市中区千田町三丁目１－10
TEL&FAX　244－6836

目　　次

◆ 支部長挨拶……………………………………………広島県建築士会広島支部　支部長　川本　克彦…… 1
◆ 特集１
「広島県建築士会の公益法人化に伴う動向と広島支部のあり方」を模索
……………………………………………建築士会広島支部　総務企画委員会　委員長　下田　卓夫…… 2
◆ 特集２
「白島新駅設計者選定競技について」　………………広島市道路交通局都市交通部　森田　　環…… 6
◆ 特集３
第12回「ひろしま街づくりデザイン賞」が決定しました　……………………………………………………… 9
◆ 施設チャームポイント紹介
「ひろしま・パーク・レストルーム –Absolute Arrows–」
………………………………………………FUTURE STUDIO 一級建築士事務所　小川　文象……10
「修道学園・中学・高等学校総合体育館」
……………………………………　ＳＳＯＴ設計共同企業体　代表　錦織　亮雄（㈱新広島設計）……14
「西風新都ゆめビル」……………………………………㈱フクダグローバル建築設計　福田　寿文……16
◆ 建築士活動紹介
「職人の汗」………………………㈲アーキネット／一級建築士事務所　代表取締役　小林　和由……18
「旅とスケッチ」……………………大旗連合建築設計株式会社　取締役企画部長　板倉　　誠……19
◆ 行政ニュース……………………………………………………………………………………………………20
◆ 委員会のページ
「女性部会」…………………………………………………………………女性部会　部長　東川　　愛……21
「青年部会」……………………………………………………………………青年部会　水守　寛敏……21
「スポーツ委員会」……………………………………………スポーツ委員会　委員長　迫谷　政則……21
「見学委員会」……………………………………………………………………………浦山　豊隆……22
「まちづくり委員会」……………………………………………まちづくり委員長　三島　久範……23
◆ 広島支部賛助会員名簿……………………………………………………………………………………24
◆ 新規入会会員の紹介………………………………………………………………………………………28

支部長挨拶

広島県建築士会広島支部　支部長　**川本　克彦**

年頭にあたり謹んで新年のお慶びを申し上げます。

日頃より支部の諸活動にご理解・ご協力をいただき誠に有難うございます。

昨年も申し上げましたが、公益法人法の改正により、建築士会は大きな転機にさしかかっています。我支部においては総務企画委員会及び正副支部長会において問題点・疑問点を洗い出し、県本部の指導のもとにQ＆Aを作成しております。会員の皆様には支部のホームページにより出来る限り新しい情報を発信し又は会員皆様の意見を頂き、幹事会を経て本年3月中には支部の運営方法、組織形態の概要を決めなくてはいけません。

本年は大変な改革の年になると思いますが、各委員会活動はもとよりこの改革に於いても会員の皆様の一層のご協力をお願い致します。

今年一年が皆様にとって良き年になりますようお祈りし、新年のご挨拶といたします。

西風新都ゆめビル

㈱フクダグローバル建築設計　　福田　寿文

敷地は、市街中心部より北西方向10kmの、若い世帯の多い変貌しつつある新興住宅団地の中にあり、周囲は緑多くの山並みに囲まれています。

建物は、この緑豊かな住宅街を背後に控えた商業街区に、新しいコンセプトのもとでの地域密着型医療施設として計画されました。

敷地は商業街区で、限られた敷地内で豊富にある緑も、地区空地としての保全が必要であり、第２種住居地域で地区計画と日影規制、道路・隣地からの壁面後退等々の規制が多々あり建物の範囲とボリュームが決まっていきました。地区計画により壁面後退距離は各々道路境界より18m、３m及び隣地境界より1.5m後退と建物範囲は限定され、住居地域で北側隣地に影を落さないため為、階高・建物高さや建物の形状にも影響されました。医療施設なので、施設全体としてのクリニックの集合体の機能上、広くて自由な空間が求めら

所在地	広島県広島市安佐南区
用　途	複合医療施設
構　造	鉄筋コンクリート造
規　模	地上４階建て
敷地面積	1,492.56㎡
建築面積	780.14㎡
延床面積	2,400.79㎡
photo	Cardin Pro

１階が調剤薬局、美容室、駐車場で２、３階がクリニック、４階が鍼灸院及び学習塾。各テナントへのアプローチさせるための１階の共有空間。

れました。また、上下階を稼働したまま改修が可能とすることで運用上影響がないように全面二重床としています。設備も各スパンに均等に分散させることで建物全体のフレキシブル性を高めています。

公共と商業という垣根を越えて多様化の一途を辿る医療施設。そのキーワードは利用者の視点に立ったあり方の見直しです。

今、医療の現場が大きく様変わりしようとしています。少子高齢化の到来に伴う健康保険財源の見直し、労働環境の過酷化に伴う医師、看護師の不足などの状況を受けて、医療施設のあり方も大きく変わりつつあります。これまでの堅苦しいイメージではなく、人々が気軽に訪れることのできる、もっと街や地域に開かれた施設のあり方が求められているのです。病気になった時だけに訪れる施設ではなく、地域の人たちが普段から気軽に立ち寄れる健康・美容サロン的な役割をこの施設に持たせようと1階には来訪者同士の情報交換ができるようベンチ等も設け、医療施設を地域のサービス施設という観点から捉え直し、公共と商業の間にあるものとして存在させるための方法論が必要です。

こうした地域のサービス施設としながらも街の中に違和感なく溶け込ませるための外観デザインと、街の延長線上として自然に人々を引込み、各テナントへのアプローチさせるための共有空間のあり方を大切にして設計を進めました。

明るく開放的な調剤薬局

医師とスタッフ、患者と医療関係者の間でコミュニケーションをいかに活性化するかをテーマに、心地良い空気に包まれたオープンクリニックの眼科
SSCテーブル、洗面器はオランダ人の家具職人の製作

患者さんとスタッフの動線を明確に分離し、子どもが常に安全な空間にいられるようにしました。
利用者にとって快適で、医師や医療スタッフにとって使いやすいチャイルドクリニック
ホスピタルアートは絵本画家のふくだとしお氏